

平成27年度 評価に関する説明資料



DATE ELEMENTARY SCHOOL

伊達市立伊達小学校

伊達小学校の通知表『あゆみ』について

絶対評価って聞くけれど何？

学習の目標（学習指導要領に示された内容）に対して、どの程度到達したか一人一人の子どもを評価するものです。全体の何パーセントをAにするなどという、人数的な分け方はしません。ですから、全員が、目標に対して十分満足できる場合は、全員がA評価にもなることが出てくるわけです。

相対評価

学級の何パーセントをAにするなど人数分けする評価を「相対評価」と言います。小学校の「通知表」では、もともとそのような機械的な分け方をしていたわけではありません。

こんな評価を目指します

- ① 知識や技能はもとより、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力など、観点ごとの目標を明確にし、目標に対して子ども一人一人がどの程度進歩したか、到達したかを適切に評価していきます。
- ② 子ども一人一人のよさや可能性を見だし、それを温かく共感的に評価できるように努めます。
- ③ 子どもの学習状況を様々な面から、様々な方法で、日常的に、継続的に、計画的にとらえていきます。
- ④ 評価を次の指導に生かす工夫をし、一人一人の学力を確実に伸ばすことができるようにします。
- ⑤ 客観性や信頼性のある評価に努めます。

*次のページからは、各項目のくわしい説明をしています。

① 知識や技能はもとより、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力など、観点ごとの目標を明確にし、目標に対して子ども一人一人がどの程度進歩したか、到達したかを適切に評価します。

○各教科、単元（学習ごとのまとめ）を4観点から評価していきます。

4観点の評価

- ・ **関心・意欲・態度**の評価
- ・ **思考・判断・表現**の評価
- ・ **技能**の評価
- ・ **知識・理解**の評価

*教科によっては、4観点でないものもあります。

例えば国語科は…

- 関心・意欲・態度
- 話す・聞く能力
- 書く能力
- 読む能力
- 言語についての知識・理解・技能

知識や理解が基礎的な学力と思われがちですが、学習への関心・意欲・態度をはじめ、知識や理解を活用して自ら考え判断する力や、言葉や文章、作品などで表現する力を評価していきます。

*例えば・・・

算数科で2年生の「かけ算」を評価するときには・・・

- ・九九の計算ができる力は、「**技能（表現・処理）**」の評価になります。
- ・九九の意味やしくみを理解し、覚える力は、「**知識・理解**」の評価になります。
- ・文章問題などから、かけ算の式を導き出す力は、「**数学的思考**」の評価になります。
- ・数や計算に親しみをもち、進んで学習しようとする力は「**関心・意欲・態度**」の評価になります。

このように、単元ごとの4観点の評価を蓄積し、各学期に総合的に評価したものが、「あゆみ」の評価になります。

「あゆみ」

○「あゆみ」には、教科ごとの4観点の目標を記載しています。

*その目標に対して・・・

- ・その目標を概ね達成していると評価されると、**B評価「○」**
- ・その目標より、さらに高まりや深まりがあると評価されると、**A評価「◎」**
- ・その目標を達成するために、努力を要すると評価されると、**C評価「△」**

・・・ここに表示しています。

2学期の記録		1年1組 番 氏名
◎十分目標に達している ○目標に達している △目標に近づいている		
	観 点 の 内 容	
国 語	進んで表現したり、いろいろな読み物を楽しんで読んだりしようとする。	◎
	事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないで聞いたりすることができる。	○
	事柄の順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文章を書くことができる。	○
	書かれている事柄の順序や、場面の様子などに気づきながら読む。	○
	言語に関するきまりを理解し、文字をていねいに書く。	○
算 数	数量や計算、形などに興味をもち、進んで学習に取り組もうとする。	○
	具体的な操作などの活動を通して、数量や計算、形などの見方・考え方を身につけている。	○
	基礎的な計算ができるとともに、簡単な量を測定したり、図形を表したりできる。	○

② 子ども一人一人のよさや可能性を見だし、それを温かく共感的に評価します。

○所見欄には、子ども一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、認めたり、励ましたり、努力が必要な点を伝えます。

③ 子どもの学習状況を様々な面から、様々な方法で、日常的に、継続的に、計画的にとらえます。

○評価は、ペーパーテストによるものだけではありません。

- ・授業中の様子
- ・発言内容
- ・ノート
- ・ペーパーテスト
- ・個別指導
- ・作品
- ・ワークシート

などで評価し、補助簿などを作成し記録を累積していきます。

- ・学習の前（宿題、既習事項の確認など）
- ・学習の途中（課題解決の過程などから）
- ・学習の後（習熟問題やノートへの授業感想などから）
など、様々な場面で評価していきます。

④ 評価を次の指導に生かす工夫をし、一人一人の学力を確実に伸ばすようにします。

○評価を次の学習の指導や、子ども自身の学習に生かすことを大切にします。

○学習の途中での評価を大切にし、子ども自身が自らの学習の状況に気付き、見通しをもった学習を進められるよう、教師自身が指導のあり方を工夫したりできるようにします。

⑤ 客観性や信頼性のある評価に努めます。

○目標に対する評価が、教師の主観となってはいけません。

- ・評価の規準をもとに、評価した資料を蓄積していきます。
- ・どんな方法で評価したかを、説明できるようにします。
- ・自己評価（子ども自身による自分の学習状況の評価）や、他者評価（友だち、保護者、学習に関係した地域の人などによる評価）を工夫します。

＊「総合的な学習の時間」は、年間の活動の様子を、年度末に4観点で評価します。

○ 「総合的な学習の時間」(3年生以上)を、本校では以下の観点で評価していきます。

「関心・意欲・態度」 「思考・判断・表現」 「技能」 「知識・理解」

この観点で、日常の学習の様子を継続して評価し、身に付けた力を文章で年度末にお知らせします。

評価の観点	総合的な学習の時間	
関心・意欲・態度		
思考・判断・表現		
技能		
知識・理解		

(○：特に優れている観点)

＊「外国語活動」は、年間の活動の様子を、年度末に3観点で評価します。

○ 「外国語活動」(5・6年生)を、本校では以下の観点で評価していきます。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」
 「外国語への慣れ親しみ」
 「言語や文化に関する気付き」

この観点で、日常の学習の様子を継続して評価し、身に付けた力を文章で年度末にお知らせします。

外国語活動 所見

＊その他「あゆみ」には

○ 「行動の記録」の欄では、学校生活全体にわたって認められる子どもの行動を、各項目について評価の趣旨にもとづいて反省し、日常の生活や道徳の時間などの指導と関連付けて、子どもの生活の様子を評価しています。特に優れた点に○をつけています。

○ 「あゆみ」は、教師側が子どもたちを評価するものだけではありません。教師が、保護者の皆様に評価されるものでもあると考えています。誠心誠意、誠実に、客観性を重視して、「あゆみ」を作成します。

所見は、お子さまのよりよい成長を願い、学校生活全般における成長や努力、今後の課題等をわかりやすく記載するよう努めます。また、質問には明確に答えられるように努めます。

○ 学級全体に、C評価が多い観点が出た場合は、教師側も自分の指導方法を振り返らなくてはなりません。一人一人の子どもに確実に基礎・基本を身に付けることができるよう、日々の授業の工夫・改善に努めていきます。